福島大の樋口助教授ら開発

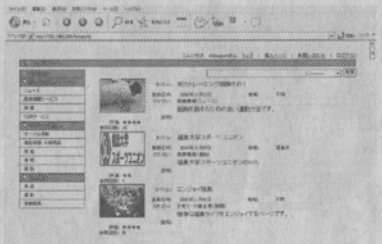
登録制の有料情報サイト
「お宝」発信に収益システム
地域活性化の起爆剤に

システムを開発した（右から）樋口助教授、マハティールさん、品川さん

福島大共生システム理工学類の樋口良之助教授（三七）ら三人は三十日までに、提供された地域の「お宝」に関する情報を登録し、アクセスの数や時間に応じて情報提供者に収益を配分するポータルサイト「ふくしま地域お宝コンテンツ（仮称）」を開発した。四月ごろの稼働を目指す。

地域情報の発信に収益性を持たせることで、住民らが身近な「お宝」を発掘・アピールする意欲を高めるとともに、地域を活性化させる新たなビジネスモデルとするのが狙い。研究員のマハティール・ビン・ムハマッド・ラフィさん（三七）、研究補助員の品川貴斗さん（三四）とともに、課金、収益配分などに関するシステムの開発、データの収集を進めてきた。

「お宝コンテンツ」の情報は、一般の検索サイトでは視聴できず、登録者を対象に定額制の有料で提供する。樋口助教授は「（月額）五百円以下に抑えたい」としている。情報の登録は無料で受け付ける予定。



樋口助教授らが開発したポータルサイト

情報は「近所のおばあちゃんのナス漬けがおいしい。もしかしたら全国に発信できるかも」といった、単独発信では収益にはつながりにくいものを中心に想定。樋口助教授は「地域に眠っていた情報を掘り起こし、新しい産業を生み出したい」と意欲を見せている。

登録が決まっている情報は現在七十件ほどで、四月までに百件程度に増やし稼働させる計画。システムを応用して食、旅行、釣りなどテーマを絞ったサイト運営も可能で、樋口助教授は「ボランティアや公的精神に富んだ人なら、無償でシステムを提供する。地域貢献できる人材を育成したい」と話している。

福島大の福祉保健医療技術 きょうワークショップ

福島大共生システム理工学類が取り組む福祉保健医療技術プロジェクトの成果を披露するワークショップは三十一日午後二時から、福島市のコラッセふくしまで開かれる。

同学類と福島市の主催。少子高齢化社会を支援する技術の開発と、地域に根差した新産業の創出を目指して昨年から始まり、二回目。研究発表とポスターディスカッションに分かれ、同学類の研究者が進める十四テーマの研究内容を紹介する。質疑応答の時間も設